

0歳から18歳までの継ぎ目のない共育を実現させよう！

前回のおたよりでは、「子供を信じて任せる」シームレスな共育において大切にしたい教師の姿勢について、義務教育学校での授業を例にお伝えさせていただきました。

今回は保育園と義務教育学校、義務教育学校と高校の接続という視点から「シームレスな共育」について考えてみたいと思います。

### 「小1ギャップ」がないシームレスな共育

1990年代後半から2000年代初頭にかけて「小1ギャップ」が社会問題化しました。小1ギャップとは、小学校に入学した直後に起こる子どもの心身や生活習慣、学習面での変化・戸惑いを指す言葉です。日本全国の小学1年生は、わずか6歳にして全く違う生活・学習を求められてきたのです。この生活や学びのリセットに耐えられない子どもたちが小1ギャップを感じるのです。令和7年2月、静岡県教委の石川幼児教育推進室長をお招きして幼児教育において、なぜシームレスな共育が必要なのかを学びました。



その勉強会には保育園の先生、義務教育学校の先生、川根高校の先生、そして地域の皆さんも参加してくださいました。一人一人の見取りを大切にしている幼児教育を義務教育学校、高校へと繋ぐことの大切さを実感することができました。

### 22世紀を生きる子どもたちに必要な学び

人生100年時代と言われます。そう考えると今の子どもたちは確実に22世紀を生きることになります。では、子どもたちが生きる22世紀とはどんな世界なのでしょう。実は、誰にもわからない不確実な時代だと言われていました。「不確実な時代を生きる子供たちに必要な学びとはいったいどんな学びなのだろうか？」年も押し迫った12月22日、さいたま市前教育長の細田眞由美氏をお招きして、こんな問いを考える会をもちました。私を含め、そこに参加したすべての人は20世紀の学びで育ってきた人たちです。その時代は学ぶことと働くことが明確に分かれた時代でした。でもこれからはそこもシームレスになります。そんな世界で迷うことなく自分の人生を幸せに生きる子供たちの姿を想像することから始めたいと思いました。



第3号も最後まで読んでいただきありがとうございました。これからも川根本町のシームレスな共育について、お伝えしていきたいと思います。

ご意見ご感想をお聞かせください。

E-mail :

k-ishihara@town.kawanehon.lg.jp